

算数科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 児童の習熟度に応じた指導や算数的活動を多く取り入れたため、算数を学ぶよさに親しみ、意欲的に取り組む児童が増えている。
- 授業中や算数補習などで、繰り返し計算練習に取り組むことで、基本的な四則計算については概ね理解している。

(2) 課題

- 算数で学習した既習事項を、新しい単元の学習や生活へ活用すること。
- 文章問題において場面を正確に把握し、図や式に表すこと。

2 観点ごとの実態・学習効果測定結果の分析

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
知識・技能	・ブロックなどの具体物があれば理解できるが、図や式をもとに計算することが難しい児童が見られる。	・基本的な計算の仕方を理解している児童は多いが、量感や時間の単位と関係の理解があいまいである。	・数の分解・合成が苦手であるため、素早く正確に計算することが難しい児童が多い。	・目標値とほぼ等しい。 ・4位数の加減法、乗法や図形の意味や性質、長さや重さの単位や測定の理解が不十分な児童が多い。	・目標値を大きく下回っている。 ・数や計算など、既習の基礎的な基本的な事柄を理解できていない児童が多い。	・目標値を5ポイント程度上回っている。 ・基本的な計算の仕方は身に付いているが、小数と分数の比較や割合の理解が不十分な児童が多い。
思考・判断・表現	・文章問題で計算の意味や計算の仕方を生かして立式できていない児童が多い。	・文章問題を正しく読み取れず、立式ができない児童が多い。	・時刻と時間の求め方について考察しきれず、日常生活に生かせていない。 ・文章問題の立式や演算決定ができないことが多い。	・目標値を3ポイント下回っている。 ・計算の意味やグラフの良さ等を実感できておらず、記述が難しい。	・目標値を大きく下回っている。 ・量感の把握や表を読み取って問題に答えることを苦手とする児童が多い。	・目標値とほぼ等しい。 ・百分率のしくみを活用し、割合を求めるような問題の正答率が低い。
主体的に学習に取り組む態度	・休み時間に計算練習するなど数量に親しみ、学習したことのよさや楽しさを感じながら学んでいる。	・ブロックを操作するなどすすんで学習に取り組むが、学んだことのよさに気づいて生活に活用することにつながらない。	・学習意欲が高く、自分の考えをもって学習に取り組んでいるが、生活に活用することにつながらない。	・目標値とほぼ等しい。 ・学習意欲はあるものの、苦手な領域には、主体的に取り組む児童が少ない。	・目標値を大きく下回っている。 ・算数の問題を解決することに苦手意識をもつ児童が多くおり、解決に時間がかかる。	・目標値を3ポイント上回っている。 ・学習意欲はあるものの、自分の考えに自信がもてず、発表につながらない。

3 課題と授業の改善策

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
課 題	知識・技能	・加減法の意味を具体的にとらえること ・数の関係を分かりやすく表現すること。	・量感や時刻と時間の単位と関係を理解すること。 ・2位数±2位数の繰り上がり、繰り下がりの筆算を正確に行えるようにすること。	・数の分解・合成を素早く正確にできるようにし、計算力を伸ばすこと。	・既習事項を正しく理解すること。 ・繰り上がりや繰り下がりの計算を正確に行うこと。	・数の仕組みや計算の仕方など、基本的な算数の知識を定着させること。	・整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。 ・百分率の意味について理解し、百分率を用いて表すこと。
	思考・判断・表現	・文章問題で計算の意味や計算の仕方を生かして立式すること。	・文章問題を正しく捉え、立式する力を付けること。	・正時や正午を区切りとして考えること。 ・文章問題の題意を捉える力を付けること。	・データを正確に読み取り、特徴や傾向を捉え、考察すること。	・問題文やグラフ、表を読み取ったり、推測したりすること。	・図や式などを用いて、ある2つの数量の関係の比べ方を考察し、場面にあった比べ方を判断すること。
	主体的に学習に取り組	・学習をすすめるなかで、自分の意見に自信をもつこと。	・積極的に手を挙げることが少なく、自信のない児童が多くいること。	・算数を学習、生活へと活用することが苦手なこと。	・苦手意識のある問題には解答の意欲がもてないこと。	・長さや大きさ、かさなどの量感を意識できないこと。	・数学のよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用すること。

	む態度						
授業の改善策	知識・技能	・「あわせて」「ちがいは」などに着目するように指導する。 ・数の合成や分解を（特に１０まで）を繰り返し練習する。	・実際に長さを測る活動など算数的活動を多く取り入れる。 ・繰り返し計算練習に取り組み、定着を図る。	・手遊びゲームなどを繰り返し取り入れ、数の分解・合成を身に付ける。	・授業の導入で既習事項を繰り返し触れるなど、定着を図るようにする。	・ICT 機器なども活用し、既習事項を復習する機会を多く設け、繰り返し指導する。	・整数と小数、小数と分数の関係を図など活用して実感させる。 ・円グラフなどを用いて、百分率の意味を分かりやすく示す。
	思考・判断・表現	・図や半具体物を活用しながら立式をさせる。	・文章問題の場面を、簡単な図に表す方法を考えさせるようにする。	・模型の時計の針の動きを観察したり、数直線の見盛りやその間について観察させたりすることを通して考えさせる。 ・文章問題において、問われていることや答えの単位などを丁寧に確認して問題場面を正確に把握させる。	・着目する視点を明確に示し、自分の考えをもたせる。また、自分の言葉で説明ができるように、説明する時間を設定する。	・何が問われているのかを正確に読み取れるよう、線を引かせるなど解決の手掛かりにさせ、自分の考えをもたせる。	・数量の関係に着目させてから、２直線を用いて表せるようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	・「間違えてもいい」という集団の雰囲気づくりを行い、安心して発表できるようにする。	・算数的活動を多く取り入れ、自分の考えに自信をもたせるようにする。	・毎単元、必ず自分の言葉でまとめを書かせる。また、生活に生かせる場を見つけさせる。	・個々のつまずきに合わせ、授業中に声掛けし、補習などで習熟させることで、前向きに取り組めるようにする。	・体験できる算数的活動を通して、学習での達成感を味わえるようにスモールステップの学習を行う。	・少人数での学び合いを通して、生活や学習に生かせるような気づきを得る機会を設ける。